

琴平神社 川崎市麻生区王禅寺東 5-46-15

古文書によると、正徳年代（1711）以前に、伊勢山の地に神明社のあった事が記されている。それによると「崇源院さま（徳川二代将軍秀忠の正室）ご繁栄の砌、祈祷所として当村鎮守大神宮を勧請致しとあるがその証拠となる物は確認されていない。その後、文政九年（1836）、伊勢山の地に志村文之丞によって四国の金刀比羅宮の祭神をこの地に勧請し、神明社、琴平社の合社が再建された。これが琴平神社の起りである。（説明書抜粋）

祭神は大物主神（大国主尊の別名）であるが、神明社と琴平社の合社相殿のお宮であるため、神座の左側（神座より見て）に天照大御神を、右側に大物主神を祀ってある。本殿の手水舎にはこれを担いだ山伏の四体の石像が置かれているが、これは通称「がまんさん」と呼ばれ地域の人々に親しまれている。

儀式殿境内社には伏見の稻荷大明社と塩釜神社、多賀神社を合わせて祭った稻荷社があり、弁財天社もあって年々参拝者の数が増えて来ている。



大きな鳥居がある琴平神社の儀式殿と銭洗弁天



本殿と山伏に担がれている手水舎